

# 安養寺



<http://digitalarchiveproject.jp/information/安養寺>



安養寺(あんにようじ)は、岐阜県郡上市八幡町柳町にある浄土真宗大谷派の寺院。山号は遠郷山。郡上御坊とも呼ばれ、郡上一帯における真宗大谷派の中心的な寺院である。間口、奥行き共に16間(約29メートル)の本堂は岐阜県下で最大といわれる。

佐々木高綱の三男・高重が出家し西信を名乗って近江国蒲生郡に「安要寺」として創建する。その後安要寺6世仲淳の時に美濃国安八郡に移転し、蓮如より「安養寺」と名を改められる。その後越前国穴馬(現・福井県大野市)、美濃国大島村野里(現・郡上市白鳥町)へ移った。戦国時代には朝倉氏の郡上侵攻に参戦してこれを撃退したほか、10世乗了の時には石山合戦に参加しており、その際に足利氏・武田氏・朝倉氏や本願寺と交わした文書が現代に伝わり、岐阜県指定有形文化財として指定されている。また、この頃に一時的に白川(現・岐阜県白川村)に寺を移しているが、当時の郡上領主である遠藤慶隆が安養寺の要請で一時的に武田方に寝返ったものの、後に織田方に帰参した事情と関連しているとする見方もある[1]。1588年(天正16年)、稲葉貞通が郡上領主になったとき八幡中坪村園野へ移る。1661年(寛文6年)に院家、1838年(天保8年)に御坊分となった。

明治時代、本堂が焼失したのを機として1881年(明治14年)に八幡城三の丸跡地(現住所)に移転、1890年(明治23年)に本堂を再建した。その後、1919年(大正8年)の郡上大火で焼亡するも、1936年(昭和11年)に再建され現在に至っている。

岐阜県指定文化財として絹本着色阿弥陀如来像、絹本着色親鸞聖人御影、絹本着色十五尊像、紙本墨書蓮如上人名号、石山合戦関係文書及び安養寺文書、紙本墨書本願相應集、紙本墨書後世物語及び香炉台を有し、岐阜県指定重要有形民俗文化財として金森内室化粧道具を所蔵している。その他郡上市指定重要文化財を複数点有し、安養寺宝物殿で公開している。

かつては郡上八幡大寄席という落語会が開かれていたほか、現在では郡上八幡上方落語の会や郡上踊りむかし踊りの夕べなど各種催し物が開かれている。

(引用:[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%89%E9%A4%8A%E5%AF%BA\\_\(%E9%83%A1%E4%B8%8A%E5%B8%82\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%89%E9%A4%8A%E5%AF%BA_(%E9%83%A1%E4%B8%8A%E5%B8%82)))



001\_安養寺000



002\_安養寺001



003\_安養寺002



004\_安養寺003



005\_安養寺004



006\_安養寺005



007\_安養寺006



008\_安養寺007



009\_安養寺008



010\_安養寺009



011\_安養寺010



012\_安養寺011



013\_安養寺012



014\_安養寺013



015\_安養寺014



016\_安養寺015



017\_安養寺016



018\_安養寺017



019\_安養寺018



020\_安養寺019



021\_安養寺020



022\_安養寺021



023\_安養寺022



024\_安養寺023



025\_安養寺024



026\_安養寺025



027\_安養寺026



028\_安養寺027



029\_安養寺028



030\_安養寺029



031\_安養寺030



032\_安養寺031



033\_安養寺032



034\_安養寺033



035\_安養寺034



036\_安養寺035



037\_安養寺036



038\_安養寺037



039\_安養寺038



040\_安養寺039



041\_安養寺040



042\_安養寺041



043\_安養寺042



044\_安養寺043



045\_安養寺044



046\_安養寺045



047\_安養寺046



048\_安養寺047



049\_安養寺048



050\_安養寺049



051\_安養寺050



052\_安養寺051



053\_安養寺052



054\_安養寺053



055\_安養寺054



056\_安養寺055



057\_安養寺056